

# 授業における民俗音楽・民俗芸能学習

伊野 義博\*

## Learning Folk Music and Dance in School Music Education

Yoshihiro INO

### 目次

I 民俗音楽・芸能学習の意義	79
II 授業構成にあたって	80
III 授業構成上の要点	82
IV テーマについて	83
V 授業構成案	84
VI 授業の実際	90
VII 授業における民俗音楽・芸能学習の基本的立場	96
* 資料、楽譜	99

### I 民俗音楽・芸能学習の意義

地域の民俗音楽、民俗芸能を学校教育において学習することには多様な意義が存在する。加藤<sup>1)</sup>はこれまでの音楽教育の実践における民俗音楽の持つ教材性として、親近感、音楽性の覚醒、音楽特性、文化的特性、郷土理解、社会性、の6点をあげている。

また、民俗音楽は芸能と一体となって、音楽以外の要素、美的要素や動的要素あるいはその地域の歴史や社会的背景にまで深く関わって成立しており、音楽のみで扱うことが必ずしも最良の方法とは言えない。特に民俗芸能に特有な体の動き（舞踊、舞）は、民俗音楽の持つ音楽特性と不可分であり、単に鑑賞や音楽表現のみ

の学習方法では不十分であろう。例えば本実践の中心となる能生町白山神社の舞楽は、音楽と動きが一体化したものであり、そのうちのどれかを抽出した学習は意味のないものとなってしまいう可能性がある<sup>2)</sup>。

学習法においては、一般に多く用いられている五線譜や西洋的なシステムの上に則った分析的な方法よりも、唱歌を用い唱歌を唱えながら繰り返し練習を行い、音楽・舞踊の全体の体験をしていくことが重要となる<sup>3)</sup>。

一方、急激に変動し国際化する社会の中で、音楽科においても自国の文化や異なる民族の文化に対する理解を深め、幅広い視野を持った人間の教育が求められている。自分が育ってきた、あるいは育っている地域に対する文化を見つめ、深く知るとともに、他地域、他民族、あるいはジャンルを越えた音楽文化の理解へと広がる視

\*新潟大学教育学部音楽科教育研究室

野の形成を考えた時、地域の民俗音楽・芸能の果たす役割は再度検討されるべきであろう。民俗芸能は生活に密着し身近であるとともに、地域から民族へとつながる広範囲な特性をも包含しており、この意味において、郷土理解、文化的特性の学習を通し、自文化に対する基盤を確固とすると同時に、音楽文化に対して世界的な広がりを持つ教材としての可能性が秘められているのではないだろうか。

こう考えた時、位置づけられた時間内で芸能を再現・体験するという限定された活動になりがちな民俗芸能学習は再考の必要がせまられ、音楽科教育あるいは学校教育における民俗芸能の位置づけも必然的に変化してくるであろう。

このような背景を踏まえ、本実践では、新潟県能生町白山神社に伝わる舞楽を中心におき、授業の実践場面を通して、民俗音楽学習、民俗芸能学習が今後いっそう意味あるものとして学校の音楽教育の中に位置づけられるとすれば、その基本的な立場はいかにあるべきかを授業の実践を通して明かにしていきたい。

なお、本実践は1996年3月15日及び3月19日、新潟県西頸城郡能生町立能生小学校2年生(32名)を対象として、また同年4月11日及び19日、同能生中学校1年生(33名)を対象として実施させていただいた。

## II 授業構成にあたって

### 1 白山神社春季大祭及び舞楽の概略

能生町白山神社の舞楽は毎年4月24日、能生白山神社春季大祭において上演される。永享年間(1429~1440)に町内重立衆が大阪四天王寺舞楽を伝承したとも言われている。京都臨濟宗相国寺の僧、集九万里(しゅうくばんり)の日記「梅花無尽蔵(ばいかむじんぞう)」によると「大平寺之鎮守白山権現、来歳三月念二三之両朝、有祭祀之舞童」(長享2年:1488)とあり、室町期には舞楽が上演されていたことが推測される。また、剣持によればこの舞楽は修験道、特に白山信仰の影響が大きいことが指摘されている<sup>4)</sup>。地方色豊かなこの舞楽は全部で11

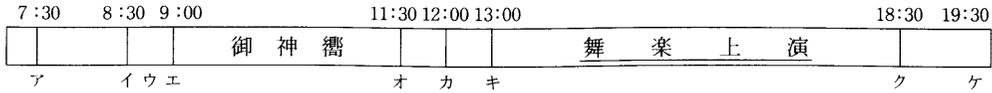
演目からなり、そのうち8演目が稚児によって舞われることから「白山神社の稚児舞」としても知られている。演目は次のように分類される。(括弧内数字は上演順)

- ・大舞(おおまい:大人による舞)
  - 能抜頭(のうばとう) : 大人1人(5)
  - 納曾利(なそり) : 大人2人(7)
  - 陵王(りょうおう) : 大人1人(11)
- ・稚児舞(ちごまい:稚児による舞)
  - 振舞(えんぶ) : 稚児2人(1)
  - 候礼(そうらい) : 稚児4人(2)
  - 童羅利(どうらり) : 稚児1人(3)
  - 地久(ちきゅう) : 稚児4人(4)
  - 泰平楽(たいへいらく) : 稚児4人(6)
  - 弓法楽(きゅうほうらく) : 稚児4人(8)
  - 児抜頭(ちごばとう) : 稚児1人(9)
  - 輪歌(りんが) : 稚児4人(10)

### 2 祭礼における舞楽の位置

舞楽は、本祭当日一連の行事執行の中で行われる。その日程は平成7年の場合は以下のようなものであった。

- ア 社参の行列(区民会館から神社へ行列: 7時30分)
- イ お庭払い(舞台上でお庭払いの儀式: 8時30分)
- ウ 七度半の使い(神使くじんし)が拝殿へ御神嚮の使いに行く: 8時30分)
- エ 御神嚮(獅子・神輿・稚児などの行列が境内を巡行する: 打ち出し9時、打ち止め11時30分)
- オ 供神饌
- カ 黙礼の式・大祭(正午)
- キ 舞楽上演(13時)
- ク 神霊還御(18時30分頃)
- ケ 行列下向(19時頃)



上図は、この日程を時間軸で相対化して表したものである。一見して明白なのは祭礼の様々な行事の中において御神饗（境内における行列巡行）と舞楽上演の時間が大きな割合を占め、中でも舞楽に要する時間が最も長いことである。舞楽は振舞から陵王まで、午後の時間一杯かけて行われ、祭礼の中で重要な位置を占めている。また、行列巡行と舞楽の両者に共通しているのは、双方とも大変にゆっくりとした進行で長い時間をかけて行われ、最後に凝縮されたエネルギーが爆発するかのようなクライマックスが登場することである。すなわち、行列は獅子、稚児、3基の神輿などが神社境内を3時間以上もかけて巡行した後、最後に三の神輿後部の社人兵部の「ヤァー」という合図で一斉に走り出し、拝殿やお旅所へなだれこむ。これをくお走り（打止め）>というが、緩慢な時間の流れの最後に登場する圧縮された一瞬の動きが対照的に構成されている。

舞楽は、くお走り>の興奮が引いた後開始される。これも全体を通して大変緩やかなテンポであるが、最終演目のく陵王>の終結部では、橋懸りがはずされ、舞人が楽屋へ飛び込む。この直後3基の神輿はお旅所から拝殿へ走り込む。この部分では、観客の興奮も最高潮に達し、祭礼は劇的な幕切れを迎える。

この二つのクライマックスにおいて、一つの楽が重要な役割を果たしている（楽譜1）。この旋律はくお走り>の時と陵王が楽屋に飛び込んだ直後の神霊還御において奏される。この楽の部分ではそれまでのゆるやかなテンポが急変し、太鼓も激しく打たれて喜びと興奮を演出する。この楽が祭礼の最高潮に達した部分で奏され、しかも祭礼の他の場面や舞楽の演目においても多用されている（後述）こと、加えて近隣（能生町、糸魚川市）の神楽にまで類似の旋律が存在することは注目に値する。

### 3 舞楽の特性

白山神社の舞楽は音と動きそれに美的な要素がみごとに調和して構成されている。太鼓（鉦打ち太太鼓）、篠笛（7孔、六本調子）群により奏される楽に特徴的な所作が伴い、各舞毎に異なる優雅な衣装が目を引き。また、唱歌（しょうが）の役割も見逃すことはできない。舞人や楽人は唱歌により動きの変化、様態、舞や楽の区別、太鼓の奏法など多数の情報を得ている。従って、日々の練習においてはこの唱歌が不可欠であり、唱歌を唱えながら行う学習のシステムが取り入れられている。このようなことから本実践では舞楽構成の中核を担っている楽・動き・唱歌の働きと学習法に注目したい。

#### 1) 音楽的要素（楽）

舞楽に用いられる楽器は、鉦打ち太太鼓一台と複数の篠笛（7孔、六本調子）である。舞楽以外の場面では法螺貝も使用される。舞楽の各々の舞には基本的に異なる楽が付けられているが、詳細を検討すると旋律やリズムの構成に共通する部分も多い。篠笛の旋律は振舞を除いてはくh-cis>の2音の間の動きが最も中心となるもので、これにe,fisが加わりくh-cis-e>やくh-cis-e-fis>の構造を持つ。前述の楽譜1の旋律はこのくh-cis-e-fis>にあたり、舞楽だけでなく祭礼全般にわたって頻出する<sup>9)</sup>。

リズムは大きく自由リズムと拍節的リズムに大別される。ゆるやかな速度でゆったりとした動きとなる。また拍の伸縮や間の取り方が大切な要素となっており、これらは舞の動きと密接に連動している。例えば児抜頭（楽譜2）では、楽譜の\*部分の拍の伸びが独特である。

ディナーミクも特徴的であり、この場合いわゆる強弱というより拍の軽重、例えば重心を下方へかけるような重さが太鼓によって表現される。例えば候礼（楽譜3）において「ドー」の

部分は重く打たれ、「ヤッテンドー」は「ヤ」の予備的なエネルギーが「テン」「ドー」に集約される。また、これは舞の所作の中で、重心のかけ方に深く関係してくる。

これらの旋律は、句（1～2小節程度の旋律、動きの単位）、節（いくつかの句が連なって形成される単位）とも呼ばれる単位に分けることができ、この句、節が一つの舞の楽を形成している。この楽が繰り返し演奏されるわけである<sup>6)</sup>。

## 2) 動きの要素（舞）

所作は全体として整然と大きくゆったりとした形をとり、足の動きを重視している。手の形は剣印（小指と薬指を折り、それに親指を重ね、人差し指と中指をまっすぐ伸ばす形）を基本としており、それを重ね内側へ回したり、回転させたりする。また手を上へまっすぐに伸ばし、広げたり剣印を捻ったりもする。足の動きは重要で、例えばすり足のような動きとは異なり、振り上げた足で舞台を踏む、蹴る、踵を上下させたり、時に跳躍する。手足の肘や膝の曲げ伸ばしには中途半端な形で所作を行うことは少ない。また手の指の形や顔の表情や方向、あるいは微妙な体の変化をさせ細かなニュアンスを伝えるような舞でもない。このような所作の性格のため、基本的な姿勢は上体を崩さず、体の中心線はまっすぐに保たれ、例えば右足を前に出し、体重をかける、そして左足を踏むなど、重心の移動とそれに伴った上下の動作が大切な要素となる。そしてこれら同じ動作を舞台の四隅、あるいは中央で繰り返すことが多い。

## 3) 唱歌の働き

唱歌は舞と楽の双方に密接に関係し、両者を結び付ける働きを持つ。唱歌を唱えることは舞人にとって単に楽の代理としての機能以上に舞を演ずるための指標として必要であり、舞人も唱歌により舞の細かな変化を知り、唱歌を媒体としてコミュニケーションすることができる<sup>7)</sup>。

唱歌は演奏者に対して、奏法、旋律把握、リズム（型）、テンポや拍の伸縮、間、音色、ディナーミク（軽重）、演奏回数、所作の開始のき

かけや終了など多くの情報を与えてくれる。

また、舞人に対しては、楽の代理機能、細かな動きの示唆（重心移動、連続や停止）、動きの軽重、間の提示、所作・舞の単位、舞の特定など重要な役割を持つ。普段の練習の際、舞人は仮に楽がなくても唱歌だけ舞うことができるわけで、総合的に見た場合、白山神社舞楽における唱歌は楽人のためという以上に舞人のために役だっていると言える<sup>8)</sup>。

## 4) 唱歌による学習法

唱歌は舞楽稽古のあいだ、楽人によって常に唱えられている。そのために楽人も舞人（稚児）も舞の練習を通して、知らず知らずのうちに唱歌を習得する。そして、唱歌に含まれる多量の情報を頼りに全体的に少しずつ楽や舞が完成していく。この唱歌の習得は、特別な楽譜や暗唱のための教育的な段階などが設定されているわけではない。舞人は唱歌をまるごと繰り返し聞きながら、耳と体全体を通して自然に覚えてしまう。6～8才の児童の音楽学習が実際の音楽をふんだんに使い口伝される中で動きを伴いながら行われること、そのために音楽（唱歌）を自然に覚え、そのリズム感や細かな動きの表現までをもきちんと体得していることに注目したい。本実践ではこのような唱歌の特性や学習法を生かしていく。

## III 授業構成上の要点

以上の考察から、本事例の舞楽においては、1、音楽と動き（楽と舞）の要素及びその密接な関係、2、体を動かす体験の重視、3、頻出する旋律パターンとそれに伴う唱歌、4、唱歌による学習法の応用、5、音楽や動きの広範囲な広がり（地域的、民族的）、の5点を授業構成上のポイントとしたい。

### 1 音楽と動きの関係の重視

前述のように舞楽の楽は舞と不可分であり、楽の持つリズム、テンポ、拍の伸縮、ディナーミクなどそのすべてが、舞の動きに添ってできている。従って楽の理解は舞との関係において

なされるのが自然である。

## 2 体を動かす体験の重視

音楽と動きの関係を重視するためには、楽に伴い体を動かすこと、楽の音楽特性を体全体で感じる事が最も最短距離であり、効果的と考える。

## 3 ポイントとなる旋律とそれに伴う所作の利用

数時間にも及ぶ舞楽のすべてを授業で扱うのは不可能であるし、またそれが必ずしも意味ある学習につながるとは思わない。むしろ、舞楽における最も重要な要素を抽出し、そこから全体を鳥瞰できるモデルを提示することが肝要と考える。本授業においては、楽譜1の旋律を取り出し、それに伴う唱歌（「オーボーチャーコノ ズッテンドー」又は「オーボーチャッコノ チャッコノオン」など）を用いることとした。この旋律あるいは唱歌は、祭礼の全体の流れの中でも舞楽においても頻繁に用いられるもので、しかも音楽構造の上でも中心となっている。（II-3-1、IV参照）

## 4 唱歌による学習法の応用

授業においては、白山神社で伝統的に用いられている唱歌による学習法を応用したい。楽譜を用いず、口伝に唱歌を聞きながら繰り返し体を動かすやり方である。唱歌を用いるこの方法は日本音楽の学習においても一般的で取り入れられているものである。

## 5 視野の拡大

楽譜1の類似旋律が、地域の神楽にあることに注目しながら、その相違点や類似点を体の動きを伴いながら体験することにより、白山神社の舞楽が一地点の存在ではないこと、また「動く」ということを通して音楽や舞踊の文化を広範囲な広がりとして認識しようとする視点を形成する。

## IV テーマ「オーボーチャーコの不思議」について

本実践においては、テーマを「オーボーチャーコの不思議」とした。それは以下のような理由からである。

### 1 「オーボーチャーコ」の楽と舞

唱歌「オーボーチャーコ」が用いられる唱歌は以下の通りである（楽譜1）。

「オーボーチャーコノ ズッテンドー」

「オーボーチャッコノ チャッコノオン」

「オーボーチャーコノ ハアテラエート」

この楽は、お走り、供神饌、能抜頭、泰平楽、納曾利、陵王（終結部）において奏され、祭礼の楽の中で重要な役割をなしている。

舞楽ではこれに舞が加わるが、「オーボーチャーコ」による舞は、白山神社舞楽の動きの特徴である足の動き、重心の移動が大変よく現れている。例えば泰平楽（太刀舞）の動きは以下のようになる。

「オーボーチャーコノ」：「オー」で左足を前へ出し、重心をかける。「ボー」左足を戻し、「チャー」で両足を揃える。「コノ」は左足左手をあげる。

「ズッテンドー」：「ズ」で左足を踏み、右足を上げ、左足を軸に左側へ1/4回転する。「テン」で右足のかかとで蹴り、右手を上へ上げる。「ドー」で両足で立ち、太刀を胸に右手を上方向へ向ける。

### 2 楽（唱歌）選択の理由

1) 祭礼全体の中で音の世界の中核を担っていること

祭礼の前半（午前）及び後半（午後）のクライマックスすなわちお走りと陵王終結部で聞くことができる。また、お走りの直後の供神饌においても用いられる。

2) 複数の舞楽の演目に用いられていること  
能抜頭、泰平楽、納曾利の中で繰り返し奏される。

3) 音楽や舞の動きの特性をよく表現してい

ること

唱歌「オーボーチャーコ」の言葉の持つリズムはそのまま音楽に生かされ、それを唱えることによりこの楽の持つ旋律、テンポなど音楽の特性がダイレクトに伝わる。特に「オー」や「ズッ」などでは重くのしかかるような唱え方が、太鼓の奏法や動きに深く関係してくる。この唱歌を唱えることが音楽や舞の持つ特徴を直接関節に体験することにつながる。

#### 4) 唱歌を用いた伝統的な学習法を体験できること

唱歌を暗唱しそれを学習の中心と据えることにより、楽譜という媒体のない口伝による体験的総合的な音楽・舞の学習が可能になる。

#### 5) 言葉のおもしろさがあること(親しみやすく、子どもの言葉あそびの世界に近い)

唱歌の言葉自体に不思議な魅力があり、意味不明な魅力や発音することのおもしろさが子どもにとって受け入れやすいものとなると考える。

#### 6) 短くて覚えやすいこと

語呂合わせ的で、響きも良く、旋律も短く暗唱しやすい。地域の舞楽の核となる旋律を一生忘れることがなく思い出すことができるであろう。

#### 7) 地域の他の芸能に広がりを持ち比較ができること

周辺地域の神楽に類似旋律が用いられ、地域の芸能を広い視点で捉えることができる。

### 3 「不思議」の意味・「不思議」の解明：唱歌に隠された秘密の探検

「不思議」という言葉をサブ・テーマとして投げかけることで、次のような興味を期待している。

- 1) 言葉そのものの「不思議」：「オーボーチャーコ」をしゃべっちゃおう  
意味不明な言葉に対する疑問、語呂合わ

せ的な言葉の発音聴取そのもののおもしろさを、実際にしゃべってみることにより体験する。

- 2) 言葉の抑揚の「不思議」：「オーボーチャーコ」を歌ってみよう。「オーボーチャーコ」を叩いてみよう。

言葉の抑揚を生かし、音高の上下や音の長短あるいは言葉の持つリズムを実際の楽に当てはめ、太鼓を打つなどしながら旋律、リズム、テンポ、ディナーミクを感得していく。

- 3) 言葉と動きが合う「不思議」：「オーボーチャーコ」を踊っちゃおう。

唱歌(楽)の持つ音楽特性を感じながら、それが舞の動きと深く関係して表現されることを体験する。

- 4) 正体が不明である「不思議」：「オーボーチャーコ」を探そう。

「オーボーチャーコ」の正体に対する不思議、それを解明する興味づけをしてから授業を進める。

- 5) 広がり「不思議」：「オーボーチャーコ」の広がり。

地域的な広がりを持つ「オーボーチャーコ」の不思議と驚き。音楽と舞踊の関係や広がりについて体験的に理解する。

## V 授業構成案

以下の授業構成案及びVIの授業の実際は紙面の都合から小学校の記録に限定する。

「オーボーチャーコの不思議」

授業者：伊野義博(新潟大学教育学部)

授業日：平成8年3月15日第3限、

19日第2限

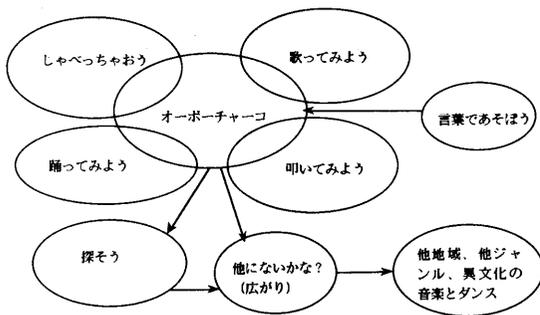
場所：能生小学校視聴覚室

クラス：能生小学校2年2組

### 1 授業のねらい

- 1) 白山神社舞楽の学習を通して地域の音楽や芸能に対する理解を深める。

- ・多用される「オーポーチャーコ」の音楽特性（言葉の持つリズム、抑揚、音高、旋律、ディナーミク）をとらえる。
  - ・唱歌「オーポーチャーコ」を舞い、白山神社舞楽の動きの特性（足の動きを中心とし、重心移動を大切にすること）を感じ取る。
  - ・祭礼の音の世界の中心的役割としての「オーポーチャーコ」を捉える。
- 2) 多様な音楽と体の動き（ダンス）との関連を体験する中で、様々なジャンルや民族の音楽を受けとめ、理解しようとする視点を形成する。
- ・音楽と動きの密接な関係の多様性を体を動かしながら体験的に理解する。
  - ・ジャンルや民族による音楽の相違を体験的に理解する。
- 2 テーマ「オーポーチャーコの不思議」について  
 前述Ⅳ
- 3 授業の概要（図）



児童の学習活動は大きく前図のような構成を考えている。すなわち、唱歌「オーポーチャーコノズッテンドー」を核にしながら、歌ったり、叩いたり、動いたりするなどの活動を通して舞楽を多面的に捉え、体験する。

- 1) 「言葉であそぼう」では、唱歌学習に結び付く活動として日常生活の何げない日本語の音の世界を楽しみながら、言葉の持つリズムや抑揚が音楽に深く反映してくるこ

とを感覚的に捉え、学習の導入としたい。具体的には、スナック菓子の商業的の言葉を使用する。この商業的は、スナック菓子の名称を連呼する際、口の動きを画面で伝えながら、テンポや音高を変化させて言葉の持つおもしろさを伝えている。従ってここでは言葉の速度や音高、音質を変化させて言ってみたり、そのリズムを太鼓で打ち、そのリズムに乗って体を動かす活動することにより、言葉の響きそのものに対する興味を持たせたい。

- 2) 「オーポーチャーコをしゃべっちゃおう」では、「オーポーチャーコノズッテンドー」の持つ言葉の特性や発音のおもしろさを、言葉遊びの世界を通して児童の一人ひとりに体験させたい。これらの発表や他の友達の考えを聞く活動を通して、この唱歌に共通する言葉のリズム、抑揚、動きの特性（伸びのある「オーポー」や切れ目のある「ズッテン」、あるいは重いアクセントの「ズ」「ドー」など）を浮かび上がらせたい。
- 3) 「オーポーチャーコを歌ってみよう」「オーポーチャーコを叩いてみよう」では、唱歌に節をつけながら歌ったり、太鼓を叩いたりして、2)の活動を発展・強化させ、この楽特有の旋律の動きやリズム、テンポ、ディナーミクを体験させたい。
- 4) 「オーポーチャーコを踊ってみよう」では、まず、この唱歌により児童に自由に動きをつけさせてみたい。この時点では、白山神社舞楽の持つ特有な動き（足を重視し、体の体重を乗せ床を踏むなど重心の移動が大切）を感じ取り表現できればと思う。特徴的な動きをする児童を数人選出し参考にするなど児童の直観や体の動きを大切に、体の中から生ずる音への反応を大切にしたい。この後この唱歌が用いられている実際の舞楽の一部を取りだし、教室一杯に真似て舞ってみる。（なお、児童への投げかけはでは児童が理解しやすいように「踊る」

という用語を使用するが、白山神社楽人会では「舞う」という表現をされている。) )

- 5) 「オーボージャーコを探そう」では、この楽が祭礼の中に多用されていることを、児童の記憶や映像資料を利用して把握させたい。
- 6) 「他にはないかな?」では、能生町や糸魚川山寺に伝わる神楽の類似旋律に眼を向けさせる。さらに異文化のダンスや他のジャンルを扱い、自由に踊ってみることを通して、音楽と体の動きの密接な関係やジャンルや民族による相違を認識・体感させたい。

#### 4 児童とテーマの関係

児童にとって能生祭は、楽しい地域の祭礼である。舞楽が上演される白山神社には屋台も多く出店され、そこでは、一日中太鼓、笛の音が響き渡っている。最も群衆で賑わう時間帯は、午前のクライマックスの〈お走り〉と午後のクライマックスの〈陵王の終結部〉であり、この時間帯を経験した児童は多いと思われる。だが、舞楽に関しては、長時間の上演であり、そのテンポも大変ゆったりとしたもので、そのままでは必ずしも児童の興味を引くものとは思えない。再三述べたように「オーボージャーコ」はこのクライマックスに登場する楽で、しかも舞楽においても頻出する。従って、この旋律を聞いた時にそれを思い出す児童も少なからずいると思われる。本授業では、児童の半知教材であるという地域の民俗音楽・芸能の特徴を生かし、児童が無意識に聞いているであろう楽の学習を中核に取り入れ、それを様々な形で体験し、考察することにより、能生祭舞楽の音や動きの世界に対する理解を深めることから始めたい。なお、対象となるクラスには、稚児経験者が一人、お走りの経験者が一人、そして新しい地域の芸能である弁天太鼓(創作太鼓)の奏者が一人在籍している。

音楽と動きを結び付けた学習については、児童はこれまで音楽授業における歌唱活動の際、楽曲に付随する動きを適当に取り入れたたり、教

は少ないが運動会ではダンスの経験もある。学級全体は明るく賑やかな雰囲気であるが、本授業の過程で大切となる体を使つての自己表現には馴れていない。また、2年生という成長過程の中で、はにかんだり照れたりし自由な表現に多少の抵抗を示す児童が出てくるとも予想される。授業においては、動きの大きさや表現の完璧さを求めるより、児童の音に対する反応や感覚の成長を読み取り、掘り起こし、育成する姿勢を基本としたい。

#### 5 教材、教具

##### 1) 能生祭関係VTR

- ・お走り・陵王終結部・供神饌・能抜頭・泰平楽・納曽利

##### 2) 神楽VTR

- ・能生町森本大神社神楽

##### 3) 他ジャンル、他地域、異文化のダンス

- ・ブギーワンダーランド (E.W&F,レコード25AP1400)
- ・フィリピン、マノボ (Manobo) 族のタグンガン (Tagunguan) によるウバ・カサ・サヤウ (猿の踊り) : (「アジア・太平洋の楽器1」ユネスコ・アジア文化センター、1994年)
- ・沖縄エイサー (新世界民族音楽体系1、日本ビクター)

##### 4) 太鼓(鉦打ち太鼓) 2台、篠笛

#### 6 予想される授業の流れ(全2時間、45分×2)

- 1) 第1時: 「オーボージャーコ〜」の持つ言葉や音楽の特性の体験。体の動きによる表現。

##### [言葉であそぼう]

\*板書した〈ジャガリコ ジャガリコ〉の文字を材料に、次のような言葉あそびをする。

- ・一人ひとりが言葉に出して読む。(各自のテンポ、イントネーションを大切に)
- ・太鼓により、表現してみる。(ゆっくりとしたテンポは革打ち、速いものは、杵

打ちというふうに奏法を区別する)

- ・太鼓を伴奏に、体で表現する。(体全体が無理な時は、最初顔だけで表現してみる)

〔「オーボーチャーコ」をしゃべっちゃおう〕

\*板書された唱歌<オーボーチャッコノ ズツテンドー(泰平楽)>を口に出して言うてみる。

- ・各自が自分の感じた速さ、抑揚で発表し合う。(唱歌の言葉の持つ自然なリズム、抑揚を生かし、児童それぞれの感じ方を大切に、先入観なしに発表させる。)

〔「オーボーチャーコ」を歌ってみよう。叩いてみよう。〕

\*舞楽<泰平楽>の唱歌「オーボーチャーコノ ズツテンドー」の旋律を覚えると同時に太鼓を叩いて演奏する。

- ・旋律を耳で聞いて習い、みんなで歌う。(口伝えに教える)
- ・太鼓を耳で聞いて習い、手で打ってリズムを覚える。(篠笛をつけてみる。「オー」「ズツ」「ドー」の重さを強調する。)

〔「オーボーチャッコ」で動いてみよう〕

\*この唱歌と太鼓にのって、自由に体を動かさせてみる。

- ・各自が音楽を聞いてそれに合わせて体を動かす。(動くことに躊躇するようであったら、簡単な足の動きのパターンを教える)(足の動き、重心移動を重視する。音楽的な特徴をつかんで表現している児童を抽出し、みんなで真似てみる)

\*舞楽の動きをビデオを見ながら真似てみる。

2) 第2時: 「オーボーチャーコ」の旋律が祭礼のいろいろな場面で用いられていることの理解。

音楽の種類と特徴的な動きの体験。

〔「オーボーチャーコ」を探そう〕

\*映像資料から、「オーボーチャーコ」の楽が用いられている場面を探す。

- ・祭礼のどんな所で使われているか、記憶を頼りに話し合う。

- ・お走り、供神饌、能抜頭、泰平楽、納曾利、陵王(終結部)などの映像資料から、「オーボーチャーコ」の旋律が多く用いられていることを知る。

〔「オーボーチャーコ」の広がり〕

\*類似旋律が用いられている周辺の神楽や他のジャンル、異なる文化の音楽を聞いて自由に踊る。

- ・能生町の神楽(森本神楽の「戸隠」)の笛と太鼓を聞いて体を動かす。
- ・ブギーワンダーランド、フィリピン、マノボ(Manobo)族のタグンガン(Tagunguan)によるウバ・カサ・サヤウ(猿の踊り)沖縄エイサーを聞きながら踊る。

## 7 評価

授業前後の次の4つの作業により評価を行う。

1) 観察による評価

- ・活動中の唱歌の唱え方、太鼓の演奏から、唱歌の音楽特性をどのように感じ、捉えているか観察する。
- ・児童の動きを読み取り、足の動きを中心とし、重心の移動を大切にしている舞楽の特性を表現を観察する。

2) 授業後の評価

- ・授業の後に授業者にお手紙の形で簡単な感想を自由に書かせる。
- ・能生祭の日に、学習した唱歌の旋律を探させる。

## 8 展開の構想

## 1) 1時間目

内 容	教師の働きかけ	ねらい	児童の学習活動	留 意 点
<p>*言葉であそぼう</p> <p>・板書したくジャガリコ</p> <p>ジャガリコ&gt;の文字による言葉あそび</p>	<p>・この言葉を口に出して言ってみよう。</p> <p>・今度は、自分の思った通りに顔や体を動かして言ってみよう</p> <p>・太鼓をつけるとうなるかな?</p>	<p>*言葉の持つ自然なリズム、抑揚の感得、その自己表現</p> <p>・CMの言葉によるリズム、テンポ、音高、音質、発音の感得</p>	<p>・口々に表現してみる。</p> <p>・自分の感じたままを発表する。</p> <p>・自分や友達の言葉の表現に、顔の表情や体の動きをつけて発表する。</p> <p>・膝や床の上で、リズム打ちをする。</p> <p>・数人の児童が太鼓を打ち、それに合わせて体を動かしてみる。</p>	<p>・一人ひとりの表現の違いを拡大して伝える。</p> <p>・リズム、テンポ、音高、音質、発音の差に注目する</p> <p>・ここでは、テンポの差が、ポイントである。速い表現と遅い表現に大別されるであろう。従って、ゆっくりしたテンポは革打ち、速いものは棒打ちというふうに奏法を区別する。</p>
<p>*「オーボーチャーコ」をしゃべっちゃおう</p> <p>・板書したくオーボーチャーコノズツテンドー&gt;のもつ音楽の特性を感じ取る。</p>	<p>・能生町にもおもしろい言葉があるよ。「オーボーチャーコノズツテンドー」へんな言葉だけど、これはみんなはどんなふうにして読むかな?</p>	<p>*唱歌の持つ音楽的な特性の感得と自己表現</p>	<p>・口にだしてそれぞれ表現してみる。</p> <p>・友達との表現の違いや共通点について考える。</p>	<p>・この唱歌の持つ、自然なリズム、抑揚を生かす。特に前半部と後半部の発音の違い、中でも「オー」「ボー」の伸び「ズツ」の切れ、「ドー」「ドー」の重みの表現を強調する。</p>
<p>*「オーボーチャーコ」を歌ってみよう。</p> <p>叩いてみよう。</p>	<p>・「オーボーチャーコ」には、こんな音楽がついているんだよ。みんなで歌ってみよう。</p> <p>・今度は、太鼓で叩いてみよう。</p>	<p>唱歌の楽の表現</p> <p>・声による表現</p> <p>・太鼓による表現</p>	<p>・教師の唱歌に合わせて、一緒に唱える。</p> <p>・唱歌を唱えながら手で膝や床を叩く。数人の児童に、実際に太鼓を叩かせる。</p>	<p>・児童の太鼓に教師の篠笛を合わせて、楽を再現する。</p> <p>・革打ち、棒打ちの差を明確にする。</p> <p>・この時点で、この唱歌が能生祭の舞楽に用いられているものであることを稚児経験者から説明させる。</p>
<p>*「オーボーチャーコ」を踊っちゃおう。</p> <p>・教師の唱歌と太鼓にあわせて体を動かす。</p> <p>・ビデオに合わせて、舞う。</p>	<p>・「オーボーチャーコ」にのって踊ってみよう。</p> <p>・実は「オーボーチャーコ」には、こんな舞がついているんだよ。みんな、真似してみよう。</p>	<p>・体による自由な表現</p> <p>・体による舞楽の表現</p>	<p>・唱歌、太鼓による伴奏で自由に踊ってみる。</p> <p>音楽の特性をよく表現している友達の動きを真似てみる。</p> <p>・稚児経験者の動きを参考にする。</p> <p>・泰平楽、納曾利のビデオをみながら、クラス全員で舞う。</p>	<p>・特に重心の移動にとまらう、体の動きを重視する。</p> <p>・音楽にうまくのっている児童を抽出し、みんなと真似てみる。</p> <p>・泰平楽は4人で、納曾利は2人で、など工夫しながら、時間のある限り、繰り返し舞い、音に傾倒していく楽しみを味わわせる。</p>

2) 2時間目

内容	教師の働きかけ	ねらい	児童の学習活動	留意点
<p>*「オーポーチャーコ」を探そう。</p> <p>・学習した唱歌の旋律が、祭礼に多く用いられていることを知る。</p>	<p>*実はこの「オーポーチャーコ」は能生祭の中でたくさん聞くことができます。お祭りのどこで出てくるか知っているかな？</p> <p>・ビデオを見るから「オーポーチャーコ」が聞こえてきたら、手を上げてごらん。</p>	<p>*祭礼における唱歌の用いられ方をその聞き取り</p> <p>・自分の記憶と話し合いから</p> <p>・録画ビデオから</p>	<p>*自分のお祭りの経験から、唱歌の旋律がどのように使われているか考え、意見交換をする。</p> <p>・お走りや陵王終結部のビデオを見て、学習した唱歌の旋律を耳で確かめ、拳手をする。</p>	<p>・友達の子供経験者の意見を聞いてみるのも良い。</p> <p>・お走りの感想や興奮する重いをみんなで話し、盛り上がる祭の雰囲気を感じさせる。</p> <p>・ビデオの録画場面は、児童が良く知っているであろう、お走り、陵王終結部をまず提示する。そして、時間があれば供神饌、能抜頭の順に進む。祭礼の音の中から唱歌の旋律を聞き取る形で行う。</p>
<p>*「オーポーチャーコ」の広がり</p> <p>・類似旋律が周辺の神楽に用いられていることを知る。</p> <p>・他の族民俗芸能やジャンル、あるいは民族のダンス音楽を聞く。</p> <p>・様々なダンス音楽を聞き、付随する踊りを想像しながら自由に体を動かす。</p> <p>・それぞれの音楽乗踊りの映像を見ながら踊る。</p>	<p>・白山神社以外にも「オーポーチャーコ」があるんだよ。</p> <p>桂、大王、森本、木浦、新戸や糸魚川の方にもあるんだよ。</p> <p>・じゃあ神楽を踊ってみよう。</p> <p>・踊りの音楽は、世界中たくさんあるよ。そして、みんなそれぞれ踊り方が違っているんだ。これから、いろんな音楽を聞くから、それに合わせて自由に踊ってごらん。</p> <p>・いろんな種類の音楽があって、いろんな種類の踊りがあったね。最後に通して踊ってみよう。</p>	<p>*旋律の広がり</p> <p>・神楽</p> <p>*舞踏と音楽の普遍性、異質性</p> <p>・アフタービートのリズム</p> <p>・他の民族のリズム</p> <p>・沖縄のリズム</p>	<p>・能生町森本神楽の録画ビデオから「戸隠」の音だけを聞いて踊ってみる。</p> <p>・「戸隠」の画面を見て、動きの様態を確認し、真似る。</p> <p>・音楽を良く聞き、それに合わせて体を動かしてみる。</p> <p>・友達の様子を参考にしながら、自分の動きを工夫する。</p> <p>・映像を見て、各々の音楽に合わせて、ダンスを真似る。</p> <p>・音楽の種類の変化にそって、それぞれの動きの特徴を表現する。</p>	<p>・重心の移動、体重をかけた重い動きの舞楽に対して、軽く、自由な足の運びをすることに注意する。</p> <p>・時間があれば、「戸隠」(天の岩戸)のお話をして、手力男命が天の岩戸を押し開く場面であることを知らせる。</p> <p>・以下の映像と音を用意する。 ブギーワンダーランド フィリピン、マノボ (Manobo) 族のタググアン (Tagungguan) による ウバ・カサ・サヤウ (猿の踊り) 沖縄エイサー</p> <p>・まず、これらのダンス音楽だけを聞いて、体を動かさせてみる。音楽に合う特徴的な動きの児童を抽出し、皆の参考にする。</p> <p>・次に映像で確認する</p> <p>・足、手、腰などそれぞれのダンスのポイントを示唆する。</p> <p>・児童の反応及び、授業時間により、映像を適宜選択する。</p>

VI 授業の実際

1 1時間目の授業展開

(1-1)

内 容	教師の働きかけ	児童の学習活動	備 考
<p>*言葉で遊ぼう ・生活の中にある言葉を繰り返して遊ぶ。 (言葉の持つ自然なリズムや抑揚の感得、自己表現)</p> <p>・言葉の持つ特性を生かし、太鼓で表現をする。</p> <p>*「オーボーチャーコ」をしゃべっちゃおう。</p>	<p>・今日は。みんなと最初言葉で遊ぼうと思っています。その後太鼓を叩こう。 ・皆さんは、これを知っていますか。スナック菓子の箱を取り出す。 ・食べたことある? ・教えて欲しいことがあるんですけれどね、コマーシャル知っている? ・どんなコマーシャル? ・はい、みんなに教えて。(指名)</p> <p>・おもしろいね。みんなで作ってみよう。 ・もっとそれをオーバーにやるとどうなる?(指名) ・ほう、じゃあ強烈なのやってみて下さい。 ・じゃあこれを太鼓で打ってもらいたいんだけどなあ。</p> <p>・うまいねえ。よし、この太鼓に合わせて、体を動かしてみよう。 ・よし、今度はジャガリコを打ってみよう。これは動くとうなるんだろう。(革打ちと棒打ちとで打ち分けで希望者とともに打つ)</p> <p>・うまいねえ。 ・よし、もう一度やろう。(児童とともに太鼓を打つ) ・そう、今みたいにおもしろい言葉はいっぱいあるのだけれど、みんなの側にもおもしろい言葉があるんだよ。 ・(板書「オーボーチャーコノズツテンドー」) ・みんな、心の中で読んでみてね。 ・心の中で読んだのを発表して下さい。(指名) ・ほう、ズツテンドー。</p>	<p>1: やったー。 2: ハーイ。  3: オーザック、ジャガリコ等。 4: はい。 5: はい。 6: はい(挙手) 7: ジャガリコジャガリコ(細かなリズムで小さく)ジャガリコジャガリコ(大まかなリズムでやや大きく)(拍手) 8: 全員で真似てみる。  9: はい(挙手)ジャガリコ〜。 10: 強烈なのできるよ。 11: リズムやダイナミクスを極端にして、発表。 12: はい。(挙手) 13: 創作太鼓: 弁天太鼓の一部を演奏する。  14: 起立し、全員で太鼓のリズムを感じ、体を動かせる。 15: 全員で、太鼓を聞きながら身体表現を行なう。大きく重いリズムでは、体重をかけた足踏みをするような形となり、細かく軽いリズムでは、足や体を小刻みに振るわせる児童が多い。 16: はい。やりたい。(挙手多数) 17: 再び、太鼓を聞き、身体表現をする。 18: ええ? 本当? 等  19: 板書を口々に読む。  20: 声を出さないで読む。 21: オーボーチャーコノズツテンドーを発表する。(「チャーコ」の伸び、「ズツテンドー」の詰まる音の表現が特徴的。)</p>	<p>・言葉の持つ抑揚を様々な形で、大変上手く表現している。</p> <p>・言葉の持つ特性を繰り返して体得させる。</p> <p>・地域の創作太鼓(弁天太鼓)を演奏する児童を指名する。</p> <p>・太鼓のリズムと響きを感じ、身体表現を繰り返す。</p> <p>・表現の特徴を強調する。</p>

(1-2)

内 容	教師の働きかけ	児童の学習活動	備 考
<p>・板書したくオーボーチャーコノズツテンドーの持つ音楽の特性を感じ取る。(唱歌の持つ音楽的な特性の感得と自己表現) *「オーボーチャーコ」を歌ってみよう。(唱歌の楽の声による表現)</p> <p>・「オーボーチャーコ」を叩いてみよう。(唱歌の楽の太鼓による表現) *「オーボーチャーコ」を踊っちゃおう。</p> <p>・教師の唱歌や太鼓に合わせて体を動かす。(唱歌の楽の体による表現)</p>	<p>・他にありますか？ ・なるほど、オー、ボー、チャー、コノ、ズツテンドー。 ・それから？ ・ほう。ズツテンドー。最後転ぶのがおもしろいね。もう一度やってみて。 ・実はこの変な言葉にはやはり太鼓がついているんだなあ。音楽もついているんだなあ。さっきから、それを教えてたくてうずうずしている人がいるのだけれども誰だと思おう？ ・Tちゃん。T先生。みんなに教えてくれる？ ・舞の何とかがって言ったね。これは能生祭に出てくるんですよ。能生祭行ったことある？ ・どんなふうにならうんだらう。 ・こうやって歌うんだよ。(声に出して歌ってみる。：楽譜1) ・太鼓は、こう打つんだよ。(太鼓を打つ。楽譜1) ・みんなで、何回か歌ってみよう。</p> <p>・叩きたい？ ・みんなが歌えるようになったら、僕はこれ(篠笛)を吹きたいんだ。(指名した児童とともに、太鼓を叩く。) ・よし、こんどはみんなで歌いながら、床を叩いてみよう。</p> <p>・(篠笛をつける。)みんな心の中で歌っていてね。 ・実は、これにはね、舞がついているんだよ。どういうふうにして動いているのかな、想像してやってみよう。</p> <p>・自分で工夫してみよう。人と全然違っていてもいいんだよ。もう一度やってみよう。 ・じゃあ、立ってごらん。最初は足を思いきり踏もう。そして、ズツテンのテンの時は、足を蹴り上げてみよう。あとは自由にやってみよう。 ・よし、やってみよう。(唱歌を歌う。)</p>	<p>1：はい。オー、ボー、チャー、コノ、ズツテンドー。(各音節の伸びが特徴的) 2：はい。オーボーチャーコノズツテンドー(「ズツテンドー」ところでひっくり返る。) 3：Tちゃん。 4：お祭りの舞の中にてでくる。 5：はい。(全員挙手) 6：いろいろ想像して歌ってみる。 7：拍手 8：教師の唱歌と太鼓に合わせて、歌う。 9：挙手。 10：太鼓を教師の唱歌に合わせて演奏する。他は唱歌を繰り返す。 11：太鼓担当の児童と唱歌・床を叩く児童に分かれる。演奏をしながら、唱歌を繰り返す。 12：唱歌を歌いながら、床を叩く。 13：太鼓、篠笛による演奏を聞く。 14：全員起立して輪になり、教師の太鼓と唱歌を聞きながら、自由に動いてみる。 15：一人ひとり工夫した動きを始めるが、今一つ納得した動きができない児童もいる。 16：起立 17：教師の真似をする。</p>	<p>・言葉の抑揚の特徴を体験的に理解していく。 ・Tは稚児舞の経験者である。 ・唱歌を繰り返し、そのリズムを打ちながら、体で覚え込んでいく。 ・太鼓希望の児童が大変多く演奏に対して積極的である。 ・積極的に動く児童、躊躇している児童等様々である。 ・動きのポイントを示唆する。</p>

(1-3)

内 容	教師の働きかけ	児童の学習活動	備 考
<p>・VTRに合わせて、舞う。</p> <p>*「オーボーチャーコ」を探そう。</p> <p>・学習した唱歌の楽が祭礼に用いられていることをくお走り&gt;の例から知る。</p> <p>・くお走り&gt;の内容を知る。</p>	<p>・うまいね。それではこれから本番に入りたいと思います。T君が練習している時の録音があります。それを聞いてみましょう。</p> <p>・今もこうして練習しているんだね。これがお祭りになったときにどうなるかな。みたことある？</p> <p>・なーんとなく見たことのある人？</p> <p>・能生祭はいつありますか。</p> <p>焼きそばを食べている時に聞こえてきたりするんだよ。どんな時かな。</p> <p>・実はT君の他に、お祭を良く知っている人がこの中にいるんだよ。Y君。</p> <p>・実はY君が大活躍した時にこの「オーボーチャーコ」が聞こえてきたんだよ。</p> <p>・じゃあY先生（Y君）にお話しを聞きたいと思います。</p> <p>・お走り？みんな知ってる？</p> <p>・じゃあ知っている人に話し下さい。</p> <p>・そうだね、御神輿の中に神様移られて走るんだね。</p> <p>・お走りの感想を話してくれる人いますか。（指名）</p> <p>・すごいんだね。たくさんのお神輿が戦車みたいになってせまってくる。これから、お走り見てみようか。</p> <p>・午前中ずっとお神輿の列がゆっくり動くよ。そしてお走りになるとワーと動くんだ。</p> <p>・これが、お走りなんだけどもう一回見るから、「オーボーチャーコ」聞こえてきたら、ここだ行って手をあげて下さい。よく聞いていてね、今度お祭りの時に聞こえてくると思うんだ。</p> <p>・聞こえていたね。ようし、これで最後にするからね、みんながお祭りにいきました、お走りの時に聞こえてくるからね。また、教えてね。</p> <p>・「オーボーチャーコ」聞こえましたか。</p> <p>・「オーボーチャーコ」は能生祭の中にいっぱいあるからね。</p> <p>・もう一度、みなさんに会えます。また来ますね。</p>	<p>1：唱歌に合わせて体を動かす。</p> <p>2：唱歌で練習をする稚児のVTRを視聴する。：泰平楽</p> <p>3：祭礼本番の泰平楽のVTRを視聴する。</p> <p>4：（予想がつかない様子である。）</p> <p>5：3分の2程挙手をする。</p> <p>6：4月24日です。</p> <p>7：思いだせない様子である。</p> <p>8：（誰だろう？）</p> <p>9：Y君：知っているよ。あのね、みこしの時に聞こえてきたよ。</p> <p>10：あのね、お走り。</p> <p>11：知ってるよ（挙手）。</p> <p>12：みんなで、走る。</p> <p>13：はい。（挙手）</p> <p>14：だんだん近くによってくる。</p> <p>15：竹みたいなので、たたく。お神輿をあげて、すごい。</p> <p>16：足遅い人ひかれそうになった。</p> <p>17：お走りの前後のVTRを視聴する。</p> <p>18：再度VTR視聴し、「オーボーチャーコ」が聞こえてきたところで、挙手をする。（視覚的な内容に気を取られ、最初から気づく児童は3人程の少数であったが、少しずつ増えてくる。）</p> <p>19：もう一度VTRを視聴し、旋律を確認する。全員が挙手をする。</p> <p>20：はい。</p> <p>21：ありがとうございました。</p>	<p>・Y君は祭礼行列の参加者の一人である。</p> <p>・音の世界に注目させる。</p>

2 2時間目の授業展開

(2-1)

内 容	教師の働きかけ	児童の学習活動	備 考
<p>*前時の確認と発展 「オーボーチャーコ」 を歌ってみよう。叩 いてみよう。 ・唱歌の歌い方を確 認する。</p> <p>・リズム、ディナー ミクの特徴を感じ取 り、表現する。</p> <p>・太鼓で叩き、その 響きを味わう。</p> <p>・棹打ち、革打ちを 聞き分け、奏法を確 認し、練習をする。</p>	<p>・前の時間みんなと授業して楽し かった。その時おもしろい言葉を やったよね。 ・一人ずつ順番で言ってもらうか らね。 ・よく覚えていたね。もう一度み んなで僕に教えてくれる？サンハ イ。 ・そう。ここから半分、友達に聞 かせてください。 ・そうだね、今度こちらの半分の 人達。サンハイ。 ・手をたたいてみましょう。 ・今度は僕の真似ができるかな。 一緒にやろうね。 ・ほう、だんだん良くなるね。 よし、じゃあ太鼓を叩くからね、 右手左手を真似して覚えようね。 ・Good!今日は太鼓をもっと叩こ う。右と左の二つのグループに分 れてみましょう。 ・(革打ちと棹打ちを使い分けて いる児童を取り上げ)この人とな りもいい打ち方をしていたよ。本 物みたいだね。どこがいいのかな、 みんなで聞いてみよう。 ・よし、これ真似て練習してみよ う。 ・ヒントをあげよう。太鼓の真中 を打つか、脇の方を打つか考えて ね。本物の音をかけるから、みん なの耳できいてみよう。 ・わかった人。 ・じゃあ、みんなは太鼓が目の前 にあるとおもって下さい。本物の 音と一緒に叩いてみよう。</p>	<p>1：はい。 2：オーボーチャーコノズツテ ンドーを一人ひとり言う。</p> <p>3：オーボーチャーコノズツテ ンドー。</p> <p>4：半数ずつ、唱歌を唱え、友 達に聞いてもらう。</p> <p>5：手をたたき、リズムを確認 する。 6：教師の手振りを見て一緒に 手をたたく。 7：左右の手を動かして、教師 が示す奏法を真似る。</p> <p>8：二つのグループに分かれ、 順番に太鼓を叩く。太鼓に触れ ない児童は、手や床を叩いて真 似てみる。 9：革打ちと棹打ちを使い分け、 演奏をする。(楽譜1)</p> <p>10：再び、交代しながら練習を する。 11：泰平楽の練習VTRを視聴す る。</p> <p>12：ハイ。(多数) 13：VTRを視聴しながら、目の 前に太鼓を想像し、叩いてみる。</p>	<p>・唱歌の復習をす る。</p> <p>・言葉、旋律とも に全員で確認する。</p> <p>・最初の「オー」 や「ズツテンドー」 の「テン」など、 リズムの重みを重 視する。 ・左右の樽を手で 示す。 ・唱歌をみんなで 唱えながら太鼓を 叩く。</p> <p>・今一つ、奏法を つかめない児童が いる。 ・実際の音を聞き 自分の耳で確認す る。</p> <p>・叩く場所を使い 分けることのでき る児童が増えてく る。</p>

## (2-2)

内 容	教師の働きかけ	児童の学習活動	備 考
<p>・楽の音楽的特徴を感じ取り、表現する。</p> <p>*「オーボーチャーコ」を踊っちゃおう。</p> <p>・音楽的な特徴を意識し、身体を動かす。</p> <p>・輪になって、自分の動きを表現する。</p> <p>*「オーボーチャーコ」の広がり。</p> <p>・類似旋律が周辺の神楽にも用いられていることを知る。</p>	<p>・よし、クイズだよ。太鼓の真中を打つ時はこうして下さい。(両手で○をつくる。) 棒を打つときはこうして下さい。(両手を広げる。) さあ、オーボーチャーコの「オー」は？</p> <p>・「ボー」は？</p> <p>・それじゃあ、ゆっくり確認してみよう。</p> <p>・そう、よくできたね。これに舞がついているからね。今度は足でやってみよう。</p> <p>・みなさん、これにはコツがあるんだよ。そう、T君のようにね、「オー」って感じだね。やってみよう。</p> <p>・いいぞ。それじゃあ輪になってください。2年2組のオーボーチャーコ踊りをやります。</p> <p>・教師がリーダーとなり、様々な形をとりながら、身体の動きを伴った表現をさせる。</p> <p>・みなさんとても良くできましたね。それでは、本番で、お祭りのときは、お稚児さんはどんなふうに動いているのでしょうか。似てるかな。違うかな？似ている所があったら教えてください。</p> <p>・どこが似ていましたか。</p> <p>・ズッテンドーはどうやっていましたか。</p> <p>・よし、みんなにお話があります。むかしむかしのお話です。天照大神というきれいなお姫さまがいました。(…古事記の天の岩戸神話のお話をする…)</p> <p>・そういうお話の踊りをこの近くでもやっているのを知っていますか。</p>	<p>1：教師のクイズに従って、一つひとつの奏法を全員で確認していく。</p> <p>2：「オー」は○印、「ボー」は両手を広げる。以下同様に奏法を確認する。</p> <p>3：奏法を確認しながら、太鼓の練習をする。</p> <p>4：唱歌を歌いながら足の動作をつけてみる。</p> <p>5：何回か繰り返すうちに、拍の軽重を感じて動く児童が増えてくる。</p> <p>6：太鼓は交代しながら叩く。</p> <p>7：輪をつくり、教師の指示により、太鼓を聞き、唱歌を唱えながらその場で身体を動かしたり、左まわりにまわったり、中央へ寄ったり手をつないだりしながら、動く。</p> <p>8：テレビの前に集合し、VTRを視聴する。</p> <p>9：笛の音と一緒に、唱歌を唱えたり、手を動かしたりしながら視聴する。(奏楽)</p> <p>10：最後の方が似ていました。</p> <p>11：ズッテンドーのところが似ていました。</p> <p>12：足をあげる。</p> <p>13：天の岩戸神話、天照大神、手力男命のお話を聞く。</p> <p>14：知らない。</p>	<p>・革打ち、棒打ちの奏法を周知させる。</p> <p>・「オー」に重みをおいて唱え、右足に体重をかける動作をして、ダイナミクスを伝える。</p> <p>・太鼓や唱歌の表現を繰り返し聞きながら、十分に身体を動かさせる。</p> <p>・大変興味深く聞いている。</p>

(2-3)

内 容	教師の働きかけ	児童の学習活動	備 考
<p>・他の民俗音楽（芸能）や異なる民族の音楽やダンスを聞く。                      ・付随する踊りを想像しながら、自由に身体を動かす。                      ・それぞれの音楽の踊りの映像を見ながら身体を動かす。</p>	<p>・ステージの下から、田力男命が天の岩戸をとるところです。よく見ていてね。                      ・今のみたことある人います。                      ・そうか、これは小泊、桂、大王、木浦、新戸（いずれも能生町）でもあるんだよ。                      ・さてみなさん、今の中で聞き逃したことがあります。                      ・それは音楽です。もう1回よく聞いて下さい。                      ・何かに似ているでしょう。                      ・そうですね。オーボーチャーコは町中にあるんだね。                      ・さあ、もともにもどって。みんなオーボーチャーコで上手に身体を動かせたね。最後にこれから、音楽を聞くから、自由に身体を動かしてね。まず、最初に音楽を聞いて、心の中で踊ってみようそれから立って身体を動かしてみよう。                      ・（身体を動かす児童を指指して）上手だね。みんなで踊ってみよう。                      ・みんなものすごく上手だね。次いくよ。                      ・教師も一緒になり身体表現する。                      ・そうみんな上手でした。2時間一緒に楽しかったよ。二つお願いします。一つは今日の授業の感想のお手紙下さい。もう一つは、能生祭の時に、オーボーチャーコを探して下さい。                      ・それではさようなら。</p>	<p>1：VTRの神楽を視聴する。                      2：桂でみたよ。                      3：へえ。                      4：何？                      5：ええ？                      6：オーボーチャーコ。                      7：フィリピン：マノボ族のタグンガンによるウバ・カサ・サヤウを聞く。（音楽をかけると同時に身体を上下に動かす児童がいる。）                      8：音楽に合わせて、自分の動きを表現する。                      9：沖縄エイサーを聞くと同時に身体表現を始める。                      10：はい。                      11：さようなら。</p>	<p>・能生町森本大神社神楽より「戸隠」                      ・音楽の類似点に気がつく。                      ・それぞれの音楽の特徴を聞き取り、異なった身体の動きを示す。                      ・タグンガンの演奏では、上下に揺れるリズムの動きを上手く表現している。                      ・エイサーのリズムの重さを身体全体を使って表現できた。</p>

## Ⅶ 授業における民俗音楽・芸能学習の基本的立場

さて、あらためて考えるまでもなく一つの授業が実施されるには、授業者の問題意識やねらい、題材や教材の選択、授業を受ける児童・生徒の実態、具体的な計画や展開の予測等、様々な角度からの検討が要求される。また、その展開においては授業者と児童・生徒あるいは児童・生徒相互の学習に対する反応や深まりが、ねらいと複雑に絡み合いながら進行していく。このように授業は実に総合的な営みであり、その経過や結果については様々な視点から分析・考察されなければならない。

本実践は一つの民俗音楽・芸能を中心に、それが学校の音楽授業においてどのような形で有効に機能しうるかを一授業者の立場から記録したものである。それは先行研究を踏まえながら、教師や学習者の身近に存在する音楽（文化）を現代的な教育課題と深く関わらせ、意味ある存在として活用・認識しようとする過程の記述でもある。従って何らかの仮説の立証や検証を目指すものではない。

わずか一題材2時間の授業の立案・計画・実施ではあるが、民俗音楽・芸能学習にどのような示唆を与えてくれるのであろうか。以下考察する。

### 1 地域文化の根幹をなす音楽・芸能の選択

本実践において白山神社舞楽を選択したのは、単にこれが国の重要無形民俗文化財に指定されているという理由からではない。白山神社春季大祭が能生町という地域、すなわち授業の対象となる児童・生徒の居住する地区における最も重要な祭礼であり、古くより住民の生活の一部として機能し、その文化形成の一端を担ってきているからである。人々は祭礼の楽を神社という音空間の中で堪能すると同時に、それに伴って舞われる地方色豊かな舞楽の動きや色彩の中で育ってきた。地域に存在する学校が地域に生活する児童・生徒を受け入れ教育活動を行なっ

ているかぎり、扱う内容は地域文化の根幹に触れるものでなくてはならないと考える。

### 2 音楽・芸能の中心的要素への注目

長時間に及ぶ祭礼や多種多様な芸能の音の世界を音楽の授業という限られた時間で扱うにはどうしたらよいのであろうか。もちろん、舞楽の一演目を選定し、その一部を紹介・体験することを中心とした授業も学習効果を期待できるであろう。しかしそれは時間的にも技術的にも困難を極めるし、なによりも芸能の再現そのものを目的とする授業は本実践のねらうところではない。加えて祭礼や芸能の部分だけの学習が本質的な意味を持つかは疑わしい。授業計画の過程においてもっとも悩んだのはこの点ある。

結果として選択したのは、すでに何度も述べてきたように「オーボエ・チャコ」という唱歌を持つ旋律群である（楽譜1）。選択の理由は「言葉のおもしろさ」「短くて受け入れやすい」ことにもよるが、何よりもこの旋律が「祭礼全体の中の音の中核」を担っており「複数の舞楽の演目に用いられ」、舞楽の「音楽や舞の動きの特性をよく表現し」ていることにある（Ⅳ-2）。こうした中心要素に注目することにより、授業内容は焦点化され、舞楽の持つ楽や動きの特性の多方面からのアプローチを可能とし、しかもこれを軸に地域の他の芸能や様々な民族の音楽や舞踊の関係・広がりについての体験的理解へとつなげることができた（Ⅴ-3）。

### 3 授業者自身の体験の重要性

この授業は授業者の数度にわたる祭礼の参観と舞楽練習の観察の結果が土台となって成立している。祭礼の執行や芸能の詳細についての深い理解が授業の計画・実践の細部に影響していることは、小論そのものが示している。このように授業者が対象に精通していることは、いかなる授業でも同じであるが、民俗音楽・芸能の豊富な知識や理解以上に授業者の直接体験による強い感動や印象、憧憬が授業展開の推進力となるのである。実際、旋律のもつエネルギーは、

教師により力強く伝えられ（VI-1-1-21）、音の感動が思いを込めて直接表現される（VI-1-2-7）。また、祭礼のもっとも興奮する場面が児童との対話の中で再現され、その素晴らしさが共有される（VI-1-3-9～20）。降矢<sup>9)</sup>は、民俗芸能の教育は「地域文化として、その地域にその芸能が果たしてきた役割や意味をも含めて、文化の継承の課題として」認識されなければならない、そのためには「芸能の内容に踏み込む深いフィールドワークを行うことが、絶対前提となる」ことを強調している。残念ながら2時間の単発の授業がこの課題に充分せまったとは言えないが、いずれにしても授業者のフィールドワークなくしては芸能の本質的な部分はどうても伝えることはできない。

#### 4 音楽・芸能の持つ特性の把握と活用

##### 1) 芸能の性格の特性

民俗芸能においては音楽は単独で成立するというよりも、舞踊をはじめ他の要素と深く関わっている場合が多い。白山神社舞楽の場合、楽と動きの要素は密接不可分である。また唱歌は練習に用いられると同時に、楽や動きの特性を声によりの確に表現することができる。楽一唱歌一動きの関係を重視し、授業を構成してはじめて舞楽の学習がなされると言えるのである（II-3）。

##### 2) 学習法を生かす

舞楽の練習は唱歌を用い、繰り返し行なわれる。唱歌により楽人舞人の双方は多量の情報を得て練習を進めることができる。唱歌をまるごと聞きながら、繰り返しを重ね、身体全体で理解していくという学習法である（II-3-3～5）。授業においてはこうした学習法をまるごと援用することはできないが、次のような形で生かすことが可能であり、またそれは効果的であった。

- ・楽を把握する際、唱歌の言葉の持つ特性を生かすこと（VI-1-1-19～21）。
- ・楽の表現における唱歌の利用（VI-1-2-8～13、VI-2-1-1～13、VI-2-2-1～6）。
- ・動きの表現における唱歌の利用（VI-1-14～17、VI-2-2-7～9）。

- ・唱歌を伴った演奏や動作の繰り返し（VI-1、VI-2）。
- ・映像や教師の示範の模倣（VI-1-2-7～13、VI-2-1-6～13）。

このようにして、学習者は身体感覚機能を生かし、楽や動きの特徴を把握していくことができた。

#### 5 多面的なアプローチ法：複数の窓の設定

本実践は舞楽の中核をなす一つの短い唱歌を中心として多方面からの窓を設定し、アプローチを試みている（V-3）。実際それは唱歌の言葉の持つ諸特性（「言葉であそぼう」「しゃべっちゃおう」）、声の表現（歌ってみよう）、楽器の表現（叩いてみよう）、身体表現（踊ってみよう）、旋律の広がり（探そう）「他にないかな？」）、そして文化的な広がり（他地域、他ジャンル、異文化の音楽をダンス）」という7つの項目により成立しており、各々が相互に関連・発展している。その結果舞楽そのものを多くの視点からより丁寧に学習することに成功すると同時に、文化的な広がりまでをも範疇に入れるような、巨視的な学習を導きだしている。ミクロからマクロにいたる視点形成が可能なこうした方法は、対象となる音楽（芸能）に対してある一定の見方を収束的に方向づけようとする学習の傾向を是正し、多方面からその魅力を体験・考察させ、さらに様々な機能や文化的脈絡の学習への広がりをも可能にさせてくれる。このことは、一つの授業における学習内容を密にするばかりではなく、題材や学年間の系統性等、カリキュラム作成にも有効に機能してくるものと思われる。

#### 6 地域空間における体験につなげる：フィールドバック機能を持つ授業

授業が行なわれてから（小学校は3月15日及び19日、中学校は4月11日及び19日）数日後に祭礼が実施された（4月24日）。祭礼後簡単なアンケートを実施した。結果は資料1に示す通りである。

祭礼には授業を受けた児童・生徒のほぼ全員（小学生の100%：32人、中学生の97%：32人）が参加している。参加者のうち授業で学習した唱歌を聞き取ったのは児童のうち81%：26人、生徒のうち100%：32人である。また、舞を見学している時ばかりではなく、神社の階段や屋台あるいは神社の外に至るまで祭礼空間の多様な場所で耳にしていることがわかる。その聞き方も舞やお走りという視覚的要素を伴う場合の他に、買い物をしたり歩いたりしたりしながら存在に気づいているのである。

舞楽の動きやそれに伴う音楽、さらには祭礼全体の音の世界を意識的に聞く姿勢や祭礼という環境の中で音を聞く耳は授業を経ることによって育成されたものと考えられる。地域空間におけるこうした生きた体験は、授業での学習を強化すると同時に、文化を形成する個人や人間との関わりに対する認識を深めるものである。

学校における音楽・芸能学習が地域に入り込むことの重要性は、すでに高見<sup>10)</sup>が指摘するところである。実際の音楽・芸能と授業との結び付けを意図する授業者の呼びかけ（VI-2-3-10）や、このようなアンケートなどにより、地域文化との間においてフィードバック機能を持つ授業を常に年頭におかねばなるまい。

## 7 広範な視野を形成しうる授業の構想：文化の脈絡の中で学ぶ

民俗音楽・芸能は、それを形成する人々の日々の生活や物事に対する考えの上に時間をかけて醸成されたものである。また、当然のことながら広く民族の文化と深く関わり合いながら成立している。こうした性格故にその構造の一部の扱いに終始（例えば音楽だけを抽出するような）したり、地域の特殊性という枠組みのみを強調するだけでは不十分である。文化の脈絡の中で、広範な視野を形成しうる授業を構成する必要がある。

こうした考えの中で実践は次の具体的な視点を提示している。

### 1) 音楽・芸能の持つ共通性を基軸とした広

がり

音楽を伴い身体を動かすという舞楽の性格は、音楽と舞踊との観点から多様なジャンル・民族の音楽文化への理解を可能にする。

授業では、沖縄エイサーやフィリピンの民族音楽を扱うことにより、それぞれの音楽の持つリズム感を身体の動きとともに感じ取ることができた（VI-2-3-7～9）。「音楽と舞踊」を基軸とした構想により、一地域の特定の音楽（芸能）を核として内容に普遍性を持つ授業が構成される。

こうした基軸は、リズムや音の重なりなど音楽の諸要素に注目することからも導きだされるが、音楽の社会性、宗教性、祝祭性など音楽の持つ多様な機能や音楽に対する人々の考え方に注目した時、いっそう設定しやすく、意義も大きいであろう。

### 2) 「自分」へのつながりの実感と「自分」からの広がり

授業を受けたことにより児童・生徒は、意識的に耳を傾け、これまで以上に関心を持って地域の音楽や芸能・祭礼に関わるようになった（資料1）。これまで何げなく参加していた祭礼は、自分との関係において捉えられ、いっそう意味のある空間となってくる。こうした地域文化へのより深い理解や主体的な参加の様態を文化の内面化とするならば、その内面化は目の前の音楽や芸能、そしてそれを執り行い参加している人々の存在なくしては成立し得ない。＜すぐそこに居る他者＞が創りだす文化を体感し、その文化の中に存在する＜自分＞を認識することは、民俗音楽・芸能を学習の対象としたからこそ可能になったのではないだろうか。対象が身近に存在するが故に成立する学習があつて始めてそこから日本、ひいては世界への視野が広がっていくものと考えられる。雅楽＜越天楽＞や長唄＜勧進帳＞などの日本音楽が学習者にとって＜自分とのつながりのない存在＞となっているとしたら、この点に対する授業者の配慮が不足しているであろう。



現在多様な文化を認め様々な音楽様式を理解することは、音楽科にとって重要な課題となっている。日本音楽や世界の民族音楽の学習は学

習者個人や学習者の生活空間における音楽文化と関わることによっていっそう意味のあるものとなってくるのではないだろうか。

本実践にあたり、能生町立能生小学校宮田範子先生、同能生中学校小川敦子先生をはじめ諸先生方、及び研究にご協力いただいた白山神社舞楽の関係の皆様深く感謝申し上げたい。

楽譜

- ・楽譜上段は篠笛、下段は太鼓、カタカナは唱歌を示す。
- ・×印は棒打ちを示す。

楽譜1：泰平楽 ♩ = 約69

笛

オー ポー チャー コノ スツ テン ドー

太鼓  
右  
左

楽譜2：児抜頭 ♩ = 約69

(ア) ヒョー オー (ア) ヒョー ヒー ヒー

楽譜3：候礼 ♩ = 約40

ドー ヲ シー ヒトー ツン フー フター ツ ミー ツヨー オ ヤ テン ドー

注

1) 加藤富美子：「日本の民俗音楽における教育実践の動向—主要雑誌等にもみる最近20年間の実践報告より—」『民俗音楽研究』日本民

俗音楽学会 p.35 1993年3月

2) 拙稿「能生白山神社における稚児舞の習得過程—音楽教育的視点からの考察—」新潟大学教育学部紀要第37巻第1号 pp.133~142

3) 岩井正浩「学校教育における口伝・口唱歌

学習試論」『季刊 音楽教育研究』pp.147～157  
 拙稿「音楽科教育における日本音楽の学習法—唱歌による箏の学習事例の検証から—」『音楽教育学第25-2号』日本音楽教育学会 pp.1～13 1995年 など  
 4) 剣持康典「能生町白山神社舞楽の研究」上越教育大学修士論文 1992年  
 5) 前掲注4)  
 6) 前掲注4)  
 7) 拙稿 前掲注2)  
 8) 拙稿 「唱歌の機能(1)—新潟県能生町白山神社の事例から—」新潟大学教育学部紀要第37巻第2号 人文・社会科学編 pp.307～

325. 1996年  
 「唱歌の機能(2)—新潟県能生町白山神社の事例から—」新潟大学教育学部紀要第38巻第1号 人文・社会科学編 pp.131～141. 1996年  
 9) 降矢美彌子「菅沼の民俗芸能調査ノート」『民俗芸能の系譜化からみる日本人の音楽・所作の研究とそれらの教材化(1:東北地方)』平成7年度文部省科学研究費補助金一般研究(C)研究成果報告書 p.47 1996年  
 10) 高見富美子「子供の音楽学習における地域社会と学校 二つの事例から」『季刊音楽教育研究 No.30』pp.86～96 音楽之友社 1982年

資料1：アンケート

授業が行われてから（小学校は3月15日及び19日、中学校は4月11日と19日）数日後に祭礼が実施された（4月24日）。祭礼直後、簡単なアンケートを実施した。内容と結果は以下の通りである。

1 内容

- 1) おまつりを見に行きましたか。
- 2) おまつりで「オーボージャーコ」を聞きましたか。
- 3) (2)で「はい」と答えた人へ) それはどんな場面でしたか。（複数回答有り）

2 結果（数字は人数）

項目	小学生（2年生32）	中学生（1年生33）
1)	はい：32      いいえ：0	はい：32      いいえ：1
2)	はい：26      いいえ：6	はい：32      いいえ：0
3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・踊っていたところ……………12</li> <li>・お走り……………3</li> <li>・よくわからない……………7</li> <li>・見えなかった……………1</li> <li>・おまつりの音楽の時……………1</li> <li>・忘れた（無答）……………3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞を見ている時……………6</li> <li>・陵 王……………4</li> <li>・泰平楽……………2</li> <li>・屋台で物を買っている時……………5</li> <li>・階段の横のところ……………3</li> <li>・踊りは見えなかったけど音だけ聞いた……………2</li> <li>・屋台の前を歩いている時……………2</li> <li>・屋台でたこやきを食べている時……………1</li> <li>・聞いただけで見に行っていない……………1</li> <li>・神社の近くを通った時……………1</li> <li>・わからない……………1</li> </ul>